



東京大学科学技術インタープリター
養成プログラム

シンポジウム

研究を「正しく」伝えるとは
どういうことか

理解増進と 評価の穴 落とし

黒田 玲子

東京大学大学院総合文化研究科教授

松井 孝典

東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

村上 陽一郎

東京大学特任教授／国際基督教大学教授

廣野 喜幸

東京大学大学院総合文化研究科助教授

石浦 章一

東京大学大学院総合文化研究科教授

藤垣 裕子

東京大学大学院総合文化研究科助教授

佐倉 統

東京大学大学院情報学環助教授

2006年12月2日(土)

13:00~17:30

場所:六本木アカデミーヒルズ40キャラントB

(東京都港区六本木 六本木ヒルズ森タワー40階)

定員:250名(要申込・先着順)入場無料

| 参 | 加 | 申 | 込 | み | に | つ | い | て |

■定員250名(要申込・先着順)

■入場無料

■参加申込方法

以下のウェブサイトからお申し込み下さい。

ただし、定員に達し次第、申込受付を終了いたしますので、
お早めにお申し込み下さい。

参加申込専用ウェブサイト

park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/sympo.html

●お問い合わせ

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科

科学技術インタープリター養成プログラム

電話/ファクシミリ 03-5465-8828

電子メール csoffice@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

URL park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/

研究を「正しく」伝えるとはどういうことか

理解増進と 評価の落とし穴

シンポジウムの開催にあたって

科学技術インタープリター養成プログラム代表
東京大学大学院教授
松井孝典



今日、科学技術のめざましい発展は現代の社会生活の隅々まで浸透し、一般市民も科学技術に対して無関心ではすまされない状況になってきています。また、科学技術が関連しながら専門家にも答えが出せないような場面において、一般市民が社会的な意思決定をせまられる場面も増えてきています。このようななか、一般市民にもある程度の科学技術リテラシーが求められると同時に、科学技術の内容を正しく伝える人材の必要性も叫ばれています。しかし、科学技術の内容、あるいは研究活動を「正しく」伝えるのは簡単なことではありません。科学技術理解増進のために必要な、研究活動に対する認識とはいかにあるべきなのでしょう。また、研究評価を行う上で、そのもととなる研究活動はどのように認識されている必要があるのでしょうか。

東京大学科学技術インタープリター養成プログラムでは、昨年(2005年)10月より一期生を迎え、研究活動を「正しく」伝えるとはどういうことかについて、学生への教育実践を通して考えてきました。そのプロセスで、現在流通している「研究とは何か」についての理解の歪みから、「理解増進」あるいは「評価」といったものへの偏った見方も生まれてきている傾向がわかってきました。本シンポジウムでは、研究とは何かを再考し、それに基づいて現在の理解増進や評価の陥穽を議論し、文化としての科学研究について考えてみたいと思います。それとともにプログラムの理念をお伝えしたいと思います。

| プ | ロ | グ | ラ | ム |

代表挨拶 松井 孝典 [13:00~13:05]

第1部 13:05~15:05

科学の「正しさ」と評価

黒田 玲子

東京大学大学院総合文化研究科教授
文化としての科学をいかに醸成し伝えるか

松井 孝典

東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
科学的事実と科学史的意味との相克~冥王星問題

村上 陽一郎

東京大学特任教授/国際基督教大学教授
評価の陥穽:研究者倫理だけで不祥事はなくなるか

休憩 15:05~15:30

第2部 15:30~17:30

インタープリター教育にどう活かすか

廣野 喜幸

東京大学大学院総合文化研究科助教授
科学技術コミュニケーター養成とは~カリキュラム検討

石浦 章一

東京大学大学院総合文化研究科教授
理解増進の落とし穴~狂牛病を事例として

藤垣 裕子

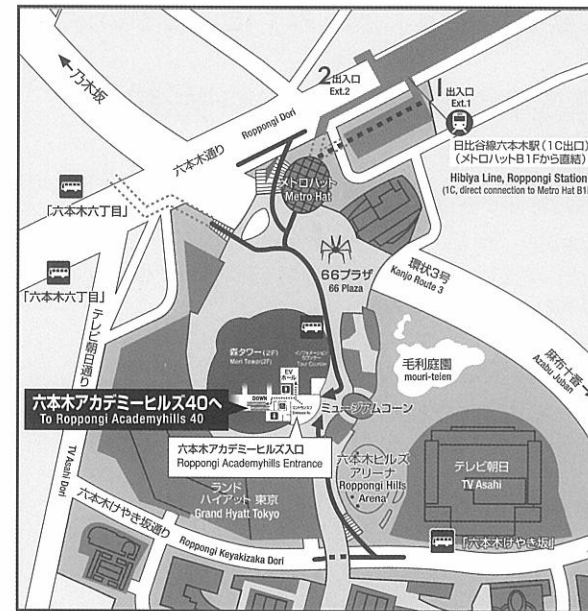
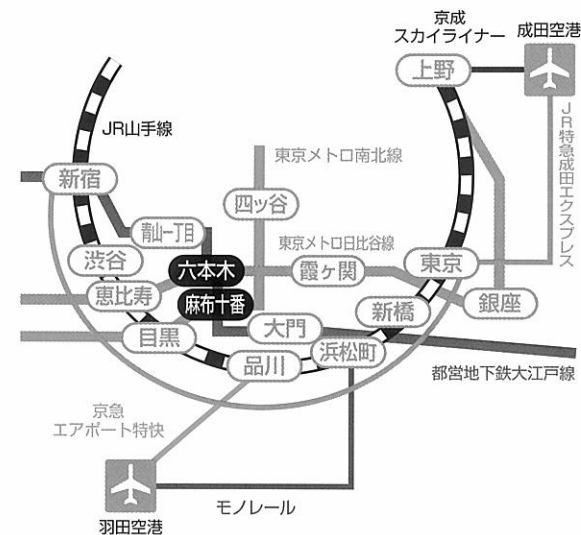
東京大学大学院総合文化研究科助教授
PUS(科学の公共理解)論より~
わかりやすさと「善意の陰謀」

パネル討論

司会 佐倉 統

東京大学大学院情報学環助教授

| ア | ク | セ | ス | マ | ッ | プ |



詳しくは、http://www.academyhills.com/forum/access/map49_40.htmlをご覧ください。